

## 第15回 PI外環沿線協議会（概要メモ）

1. 日時：平成15年3月4日（火） 午後7時00分～9時05分

2. 会場：都庁第一庁舎5階 大会議場

3. 出席者：23名

関係者（敬称略）

須山直哉（練馬区） 武田佳登（練馬区） 宿澤藤子（杉並区） 濱本勇三（武蔵野市）  
 村田あか夫（武蔵野市） 川瀬俊明（調布市） 橋本鐵雄（三鷹市） 新山光男（世田谷区）  
 小林充枝（世田谷区） 渡辺春明（調布市） 橋本鐵雄（三鷹市） 新山光男（世田谷区）  
 江崎美枝子（世田谷区） 栗林勝彦（世田谷区）

地元自治体

水戸英昭（練馬区） 倉田征壽（杉並区） 伊藤隆造（武蔵野市）  
 柴田直樹（三鷹市） 新谷景一（調布市）

国土交通省・東京都

大寺伸幸（関東地方整備局道路企画官） 伊勢田敏（関東地方整備局東京外かく環状道路調査事務所長）  
 成田隆一（東京都外かく環状道路担当部長） 宮良真（東京都外かく環状道路担当課長）

4. 傍聴者：約50名

5. 概要：

### 【総論】

- ・今後の議論の中で、環境への影響が大きく、問題が生じた場合は、事業を止めることもあると宣言すべき。
- ・外環憲章のようなものをつくり、事業の評価をする仕組みを考えるべき。

### 【都市づくりの考え方について】

- ・水と緑のネットワーク化は、外環計画と一体で考える重要な政策。東京都がどのような方向でやっていこうとしているのか伺いたい。
- ・必要性を考える場合、大きな意味での通過交通をどうするか説明すべき。
- ・開通した外環練馬区間を見ても、残された人は地獄である。その教訓から周辺環境整備をしっかりとしてほしい。
- ・市民参加による事後評価を実施し、完全に環境の修復をするようなところまで担保して欲しい。

### 【環境に与える影響について】

- ・影響は「立ち退く人」だけでなく「残る人」にとっても重要な課題。新しい法制度を作り、これに基づき、これらの人に対する補償を検討すべき。
- ・交通需要予測は、必要性の判断材料としては骨格。データを出さないと議論できない。外環ができた場合とできない場合について交通需要がどのようになるのかシュミレーションすべき。
- ・シールドにより、地下水をどの程度分断するのかなどのデータを出すべき。また、地下水対策は水脈の保全だけでは完全でなく、井戸などの生活用水をどう保存していくのが課題。モデルを出して議論すべき。
- ・大深度も念頭において検討を進めているが、地下水の流れ等について、次回の協議会で図面や模型などを活用して具体的に説明したい。
- ・大深度になった場合、現在までに提出した資料がどのように変わるのか、資料として出すべき。

### 【その他】

- ・現状では、他の事例から見て、アセス時の交通量と事後の交通量が大きく異なることを充分認識すべき。
- ・いま協議会で議論となっているのは関越道～東名高速間だが、環状道路という意味では東名以南は重要。東名で外環が止まったら渋滞が予想されるが、国の考えを問う。
- ・事前のアセスについても新たなシステムを担保すべき。協議員の私たちがコンペにより調査会社を選択できるようにすべき。
- ・次回は、3月27日（木）午後7時から、意見書などでいただいた質問に対する回答、模型等を活用した影響についての説明を行い議論していくこととした。